



小石川植物園に珍しい植物が開花したというので、見に行ってきました。ショクダイオオコンニャクです。ショクダイオオコンニャクは漢字では「燭台大蒟蒻」と書きます。ロウソクの台のような巨大な花を咲かせるという意味の名です。自然界ではスマトラ島のみ分布する、サトイモ科の植物です。

植物そのものも珍しいのですが、開花も非常に稀で、10年に一回程度と考えられています。小石川植物園では1991年と2010年に開花の記録があり、今回は13年ぶりということです。日曜日ということもあって植物園は大混雑で、正門から少し入ったところに臨時の入場券売り場が設けられていました。更に温室前は長蛇の列で30分以上かかるということで、温室の外から見せてもらいました。

さすがに単独の花としては「世界最大の花序」です。手前の少年と比べても、その大きさがわかります。匂いがすごいと聞いていたのですが、温室の外からではわかりませんでした。たまたま知人に出くわして「並んで、そばで見えてきた」というので、匂いについて聞くと、「それほど匂わなかった」ということです。

次に咲く時は、私は年金生活になっているでしょうから、今回写真も撮れてよかったです！

(2023年12月上旬/
小石川植物園温室)